



公式ホームページ

「桜井ひでき」
で検索！
日々の活動を
投稿しています



Instagram

発行日：令和7年4月18日
発行所：トヨタ自動車労働組合
発行人：近藤大輔
編集者：桜井秀樹
印刷所：(株)トヨタエンタプライズ



KABANET

愛知県議会議員

桜井ひでき

くらしの相談担当者レポート No.23



いそぎ哲史参議院議員の活躍に期待します！

人が輝き躍進する愛知をめざします！

この4月をもって4年の任期の折り返しになります。この2年間は、長い感染症との戦いが終息に向かい、経済・社会が日常を取り戻しつつある中、様々な取組を進め、愛知県では県政150周年を機に整備した「ジブリパーク」をはじめ、多くの事業が実を結びました。また、7月には待望の新体育館「IGアリーナ」が完成します。

さて、政治の方と言えば「〇〇の壁」「〇〇の無償化」に表されるように各政党間で議論されていますが、どこか「財源論」が置き去りになっているように感じます。現在、国債残高、いわゆる国の借金が1,300兆円を超え、国民一人当たりでは1,085万円となっている現状に目を背けているようにも感じます。「いそぎ哲史」参議院議員には、今の国の財政状況を鑑み、将来の道筋を示していただくことを期待しています！

令和7年2月定例議会

Make Aichi Great 予算で愛知を勢い盛んに成長・発展させていく議会を開会！

令和7年度 県予算のポイント

主な議案

令和7年2月定例議会（2月17日～3月24日）では、一般会計2兆9,413億余円を含む4兆4,444億余円の令和7年度当初予算をはじめ、99議案が上程され、慎重な審議の結果、全ての議案を可決しました。

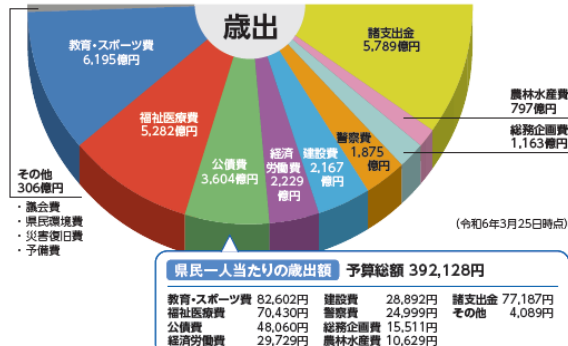
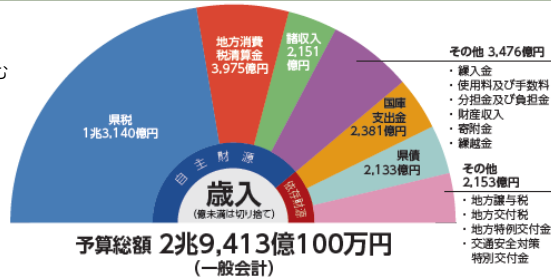
本県の財政運営は、単年度の歳入だけで歳出を賄うことができず、多額の基金取崩しに依存する厳しい財政状況が継続。

2025年度当初予算においては、実質収入ベースの一般財源の大幅な減少に加えて、人件費、扶助費といった義務的経費が増加する厳しい財政状況でありましたが、財政調整基金の残高を確保するなど、財政の健全化を意識した予算編成を実施。

歳入 県税は、前年度から233億円増の1兆3,140億円を計上。

法人二税は、県内企業の業績予想などを踏まえて減収を見込む一方で、個人県民税については、定額減税の終了による増収185億円のほか個人所得の増加による増収を見込んでいる。

歳出 医療・介護・子育てなどの扶助費や、民間企業の賃上げの影響を受ける人件費といった義務的経費が増加することなどから収支不足が発生し、基金を取崩し対応した。



県民一人当たりの歳出額 予算総額 392,128円

教育・スポーツ費	82,602円	建設費	28,892円	雑支出金	77,187円
福祉医療費	70,430円	警察費	24,999円	その他	4,089円
公債費	48,060円	総務企業費	15,511円		
経済労働費	29,729円	農林水産費	10,629円		

令和7年度
主な県事業

愛知万博20周年記念事業
「愛・地球博20祭」を開催！

2025年に愛知万博の開催から20年を迎えるにあたり、万博を知らない子どもや若者たちを中心にその理念や成果を継承するとともに、愛知の魅力を発信する記念事業を開催します。

<愛知万博20周年記念事業の概要>

会期：2025年3月25日～9月25日まで※2005年の愛知万博と同じ会期

会場：愛・地球博記念公園 愛称：愛・地球博20祭

メインテーマ：つなぐ未来（あした）へ

サブテーマ：①愛知で、さがそう！遊ぼう！つながろう！

②語りあおう！つなげよう！自然の叡智



世界トップレベルのグローバルアリーナ
「IGアリーナ」がオープン！

2025年7月にグランドオープンを迎えるIGアリーナは、愛知・名古屋のシンボルとなる「世界トップレベルのグローバルアリーナ」として、民間のノウハウを最大限活用しながら運営を進めます。

<IGアリーナ（愛知国際アリーナ）の概要>

PFI事業者：株式会社愛知国際アリーナ

建築面積：約26,500㎡ 延床面積：約63,000㎡ 階層：地上5階

最高高さ：41.0m 最大収容人数：17,000人（立見含む）

事業計画地：名城公園北園の一部（約46,000㎡）



一般質問・議案質疑をおこないました！

2月議会で機会をいただいた、一般質問『愛知県が目指す次世代モビリティ』・議案質疑『ギャンブル等依存症対策に対する愛知県の取組について』についてご報告します。

Q あいちモビリティイノベーションプロジェクト「空と道がつながる愛知モデル2030」で災害対応のモデルで示されているドローン・空飛ぶクルマの災害時の活用とその考えを伺う。

大村知事 答弁

今年度は、空と陸、ヒトとモノの移動に境界がなくなる世界の実現を目指し、物流の新たな担い手となるドローンによる離島との物資輸送実証や全国初となる都心での自動運転車の定期運行に加え、空飛ぶクルマの県内飛行に向けた環境作りを進めていく。一方、自動車始め日本一のモビリティ産業が集積する本県においては、新年度から関連する事業を一体的に所管する「次世代モビリティ産業課」を新設し、需要の創出・供給力強化の両面からモビリティ分野の振興を強力に推進していく。



答弁する
大村知事

経済産業局長 答弁

災害時の被災状況調査での活用を想定した実証実験を行うとともに、平時のビジネス化を想定した河川・道路等公共インフラの巡視業務や物資輸送モデルの実証事業をおこなう。また、空飛ぶクルマは、まずは平時の商用運航の実現を目指し、現在、県内での飛行ルートの調査、検討をおこなっている。



答弁する
経済産業局長



一般質問する 桜井秀樹

次世代モビリティの早期実装化。また、活用方法に防災の観点も重要です！

桜井の意見

現在愛知県では、小職もセミナーなどに参加させていただいている「全国ギャンブル依存症家族の会愛知」をはじめ、4つのNPO団体が様々な相談に対応いただいておりますが、活動資金不足になっている現状を鑑みて、県が主催している「愛知県ギャンブル等依存症対策推進協議会」に出席している団体に働きかけ、資金を拠出し、基金を設立することを要望しました！

Q 第2期愛知県ギャンブル等依存症対策推進計画の取組について伺う。

保健医療局長 答弁

啓発動画をYouTubeで配信するとともに、県公式LINEアカウントを活用して啓発期間の周知を実施。また、全国ギャンブル依存症家族の会愛知等、関係機関と連携してイベント等を開催した。



議案質疑する
桜井秀樹

Q オンラインカジノへの対応と相談窓口について次期計画でどう反映していくのか伺う。

保健医療局長 答弁

現在国が策定を進めている基本計画では、取組を強化する動きがあり注視している。相談窓口は、精神保健福祉センターをギャンブル等依存症相談拠点として位置づけ、相談者の課題について対応している。



答弁する
保健医療局長

1/14・23・3/12

自動運転試乗（名駅⇄STATION Ai）

ステーションAiの開設にあわせて名古屋駅からの定時運行を体感。実証期間中に路上駐車への対応を修正するなど日々改善され「実装」に向けた手ごたえを感じました。



日々の活動

1/21

岐阜県核融合科学研究所視察

核と言うと原子力発電が浮かびますが、原子力発電は核分裂により発電しますが、核融合発電は核融合により発生した熱により発電するものです。



2/6

スタートアップの祭典「TechGALA. Japan」を視察（ステーションAi）

会場の熱気と参加者のエネルギーを感じ、愛知のスタートアップ拠点としての役割を感じました。

